

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

〇〇38



志学塾の「一斉個別方式」を離島の地域教育に生かしたいという内閣官房企画官のリクエエストに応え、一昨年、島根県の海士町教育委員会の招きで「出前塾」を行ってきました。片道2日間の遠路を往復したかいがあり、受講生やその家族

地域教育

から「こういう学習の場が欲しい!」と熱い感想が寄せられ、昨年11月に町営塾「隠岐國(おきのくに)学習センター」がスタートしました。海士町は豊かな海と湧水に恵まれ自給自足のできる人口約2600人の半農半漁の町です。後鳥羽上皇が在島17年余り、この島で生涯を終えられたことでも有名です。

2日間の「出前塾」では、小学生から大学

今こそ求められる本気

家族のあり方がベースに



by yoriko

受験生までの子に「夢に向かっておのずと努力を積む」学習方法をじかに伝えることに終始しました。印象に残ったことの一つに、「算数は好きだけど国語はイヤ!」と言っていた小2男子の鉛筆の持ち方がありました。私は、小学校で勉強を始めて1年と数カ月のその子が1クラス8人で、なぜ落ちこぼれるのか驚きました。顔立ちのりりしいその子は「漢字が面倒くさい」と言っていて算数ばかり取り組もうとしています。私は鉛筆の持ち方から教えました。すると、国語の新出漢字を筆圧強くのびのびと書けるようになります。楽しんでいう点

うに通うわが子の姿から感じるものがあつたのか、最終日にお母さまから丁寧なごあいさつを頂きました。町には小学校が二つあり、どちらも学年1クラスだけ、しかも生徒数は12人と8人。それが一つの中学校に進み1学年約20人の海士中学校になります。そして、地元で唯一の県立隠岐島前高校は近隣町村からの進学者を入れても1学年30人を割り込み、廃校の危機に直面しています。町の教育委員会は、町営塾を核にして大学進学率を高め、本土への人口流出を防ぎたいと私を招きましたが、私は国立大への進学者が途絶えると、学校の先生に「地元の者」がいなくなるようにという点の教育が求められていた。

を提言しました。もちろん、「よそ者」が悪いわけではありませんが、志願したわけではなく本土から定期的に派遣される先生ばかりになったら、学校現場はどうなってしまうのか心配になったからです。確かにどんなに教員が優秀でも、どんなに少人数学級でも、子どもたちに学ぶ意欲がなければお手上げかもしれません。しかも1クラス数名の学校でもいわゆる落ちこぼれが出てしまう現実に驚かされます。

「購入者が嫌いだっ一度学び直社会人ですう勉強してない。その2冊で高が理解できがびった。は。発売5万5千を、掘越俊ス出版部長

ます。しかし、学校教育が「ゆとり教育」になってから、親の世代からは子どもたちの本当の「学力」が見えにくくなっています。この章では「見えない学力」について述べさせていただきます。

(畑山篤二志学塾塾長)

その全体め、著者の大教授が知「なぜそれ明示するでぜ」に答え味の分からはを覚えさせ学嫌いを生この本ではて来る背景と書きましその結果

3月には発売の教科書(円)が、例の売後、高目を体系外教科書物ではないに聞いた

新体系

教育

けれど、旅客はさらに増え続けます。政府は東京周辺にもう一つ、空港

観光客も増えるのでは、と期待されています。国際線の飛行機が羽田

アジア各地の空港に負けられないようにするには、

地方の人も出かけやすく

羽田も成田も、もっと数を増やし、航空会らもう使用料を値するなど、難しい課題解決する必要があります。

羽田空港の国際化

ニュース なぜなに